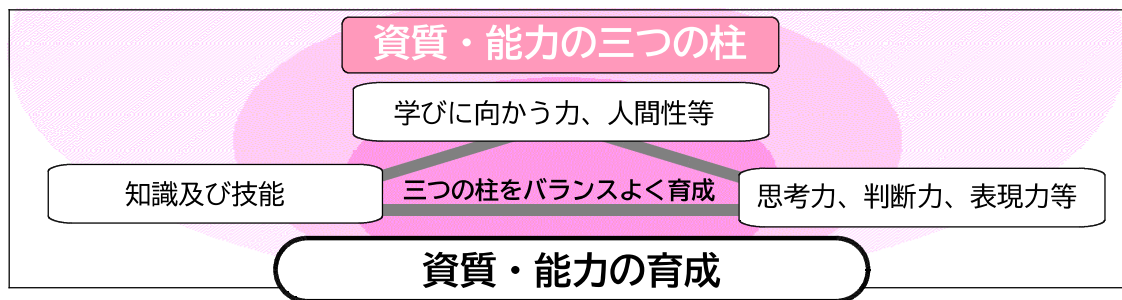


3 学習指導要領の趣旨を踏まえた資質・能力をよりよく育成するために

資質・能力の育成のための「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善



授業改善

「主体的・対話的で深い学び」の実現

主体的な学び

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる

対話的な学び

子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める

深い学び

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう

深い学びの鍵となる各教科等の見方・考え方

各教科等の特質に応じた「見方・考え方」

- ・その教科等ならではの物事を捉える視点や考え方
- ・各教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなすものであり、教科等の学習と社会をつなぐもの

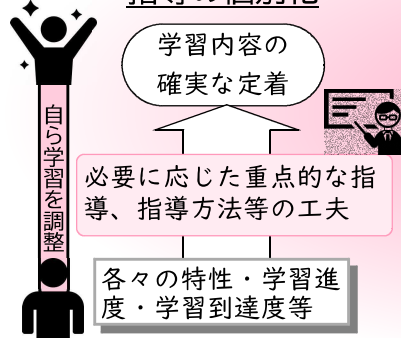
👉 p26

一体的に充実

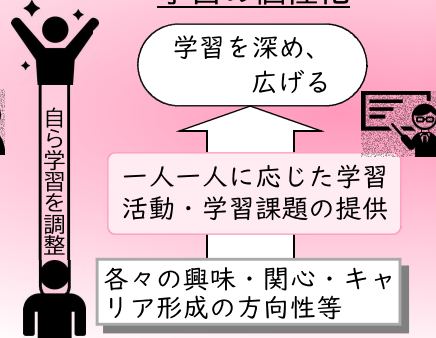
個別最適な学び

(教師視点:「個に応じた指導」)

指導の個別化

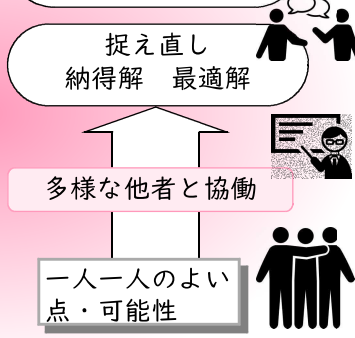


学習の個性化



協働的な学び

異なる考え方が組み合わせられ、よりよい学びを生み出す



教師が児童生徒一人一人の学習状況を見取りながら適切な指導や関わりを行うことで、児童生徒が主体的に学習する過程において自ら学習を調整しつつ、資質・能力を身に付けることが重要です。単元(題材)をベースとして授業を構想し、児童生徒が自ら教材・方法・ペース等を選択できる学習環境を教師がデザインしていくことが大切になります。

1人1台端末環境を生かし、学びの質を高めるためのICT活用

- 資質・能力の三つの柱をバランスよく育成するため、各教科等の特質や学習過程を踏まえて適切な場面においてICTを効果的に活用し、学習活動の一層の充実を図る。
- 児童生徒の情報活用能力に関する実態を把握し、段階的に育成することができるよう、教科等横断的な視点で計画的にICT活用を図る。



「各教科等の指導におけるICTの効果的な活用について」(文部科学省)

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善と評価

指導と評価の一体化を図るためには、児童生徒一人一人の学習の成立を促すための評価という視点を一層重視し、教師が指導のねらいに応じて授業の中での児童生徒の学びを振り返り、学習や指導の改善に生かしていくことが大切です。

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を通して、各教科等における資質・能力を確実に育成する上で、「学習評価」は重要な役割を担っています。

児童生徒が学習したことの意義や価値を実感できるようにする

- 児童生徒のよい点や進歩の状況などを積極的に評価する。
- 教師による評価とともに、児童生徒による学習活動としての相互評価、自己評価などを工夫する。
- 学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして、児童生徒が自身の学びや変容を自覚できる場面を設定する。

各教科等の目標の実現に向けた学習状況を把握し、資質・能力の育成に生かす

- 単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、育成を目指す資質・能力を明確にした評価規準を設定する。
- 学習の成果だけでなく、学習の過程を一層重視し、学年や学期にわたって児童生徒がどれだけ成長したかという視点で評価する。
- 児童生徒の学習状況を把握することで指導の改善に生かし、計画的に評価を進めるとともに、単元や題材の中のどの場面で、どのような方法で、児童生徒について観点別評価をするための記録を取るのかを明確にする。

学習評価の妥当性や信頼性が高められるようにする

- 学校として次のことに組織的かつ計画的に取り組む。
 - ・評価規準や評価方法等について、事前に教師同士で検討するなどして明確にする。
 - ・評価に関する実践事例を蓄積し共有していく。
 - ・評価結果についての検討を通じて、評価に係る教師の力量の向上を図る。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（小学校編・中学校編）
（国立教育政策研究所）



学習評価の質を高めていくことは、授業改善に直結するものです。評価の観点や頻度、形式的評価や総括的評価の効果的な使い分けの在り方等を吟味していくことが大切です。

学習指導要領において示された資質・能力をよりよく育成するためには、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が欠かせません。児童生徒が、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせている具体的な姿を想定して単元（題材）を構想し、各教科等における資質・能力を単元（題材）全体を通して育成できるようにすることが求められます。

また、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実という観点から、学習活動の充実を図っていく中で、児童生徒が主体的に学び、自ら学習を調整しつつ資質・能力を身に付けられるようにしていくことが大切です。

